

研究課題名	集中治療室入室患者における末梢皮膚穿刺採血と動脈ライン採血による血液培養のコンタミネーション割合の比較
研究機関名	沖縄県立中部病院、亀田総合病院、堺市立総合医療センター、自治医科大学付属埼玉医療センター、武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 救命救急センター 氏名 岸原 悠貴
研究期間	(西暦) 2019 年 1 月 ~ 2019 年 12 月
研究の意義・目的	集中治療室入室患者において末梢皮膚穿刺採血と比べて、既存の動脈ライン採血による血液培養のコンタミネーション割合が非劣性であるかを検討する。末梢皮膚穿刺採血と動脈ライン採血の血液培養コンタミネーション割合を調査する前向き研究としては、これまでで最大のサンプル数となる研究である。これらにより、先行研究と比べてより妥当性の高いコンタミネーション割合を推定できる。本研究の結果は、集中治療室における血液培養採取法の選択の根拠として広く多施設に有益であり、また各団体の血液培養採取についてのガイドラインに引用可能な情報を提供することができる。
研究の方法 (対象期間含む)	本研究は集中治療室における菌血症の診断検査（血液培養の採取方法）についての前向きの観察研究である。定められた選択基準に当てはまる組み合わせで採取された血液培養のコンタミネーション割合について同一個人内並行群間比較を行う。研究期間は倫理審査承認後、「4.3 サンプルサイズ」で設計した参加者数の登録が完了するまでとしているが、当院ではおおよそ2019年1月～12月までを予定している。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①全てのデータは当院で匿名化処理を行い、個人を特定できない状態で研究代表施設へ送られる。匿名化された情報は、当院救命救急センターのカンファレンス室のパスワードのかかるパソコンか鍵のかかる棚に保存を行う。②基礎情報(年齢、性別など)、血液培養採取時の情報(採取日時、バイタルサイン、SOFAスコアなど)、採取手技情報(消毒方法、採取者など)、血液培養結果、臨床転帰の情報を収集する。③各参加施設のスタッフが本研究のデータを利用する可能性がある。④武蔵野赤十字病院 救命救急センター 岸原悠貴
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急センター 氏名 岸原 悠貴 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525